

SHIN CLUB 247

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk



「COCOSPACE 恵比寿南」 撮影：小野寺宗貴

RC造で

写真は、6月に竣工した恵比寿のテナントビルです。東京メトロ日比谷線の恵比寿駅からは徒歩2分、JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン恵比寿駅西口からも徒歩4分の好アクセスです。敷地はヒューマンスケールの道路に面しており、賑わいのなかにも洗練された落ち着きを感じられるエリアです。

幅広く事業を手掛ける事業主様から見ると小さな規模のビルですが、今回敷地の特殊性から、少しデザイン性のあるビルを自社所有として利用されたいというご希望で、「ハル・アーキテクト」の竹内巖氏に設計を依頼されました。

当初はコスト面から鉄骨造という方針でしたが、なるべくファサード側に柱がない空間にしたいというリクエストが出て、敷地と構造の形状が複雑になるにつれ、鉄骨も斜材が多く、接合など手間が予想されるようになってきました。施工は古くからお付き合いのある方を通して弊社をご紹介いただいていたのですが、辰の当時の社長、現森村会長が、「オリンピック需要で鉄骨の価格の値上がりが予想され、鉄骨造は外壁の選定など決してコストが低いわけではないので、形も複雑になるなら最終的にRC造の方がいいのでは」と提案しました。またその後の検討で8階建てにすることができ、より立ち姿を美しくデザインする方向で話はまとまり、RC造に変更されました。

「恵比寿も中規模のものは同じような形のビルが並んでいますが、ちょっとデザイン性のある建物が入ると小さくても刺激的ですね」と竹内氏。施工面では辰の地味な部分の頑張りも評価しています。

「コンクリートを薄くして収まりをうまくまとめたり、バルコニーのガラス廻りの防水に配慮して立ち上がりをつけて収めてくれたりと、全体として目立たない部分で力を発揮してくれました」

道路から見あげると、バルコニーの軒裏の木を貼っている部分が目を引きます。

「見あげたところもファサードの一つと捉えて、デザインしています。マンションなどでも、通常は外側にタイルを張るのが普通かもしれませんが、逆転させて、内部の小壁にタイル、外は打ち放しにということもよくやりますよ」と竹内氏。全てをセオリーだけでまとめるよりも、やはり少し余裕がある方がデザインはいいと言います。

「一般に商業施設はガラスファサードで中を大きく見せるのが普通です。私が以前渋谷で建てた5階建てのビルのように、中に仕込まれている階段、奥のエレベータまで表から見えるものもあります。しかし、今回はRC造で独特な敷地に合ったものを作ることができました。当初、四角ではない土地を購入されるとき、お施主様はまだ完成形のイメージは整っていなかったようですが、このジグザグとした形状の案に、『いいかも』と良いイメージを持ってくださいました」

「一つ隣のビルなど、表通りの新しいビルは緑化を施したりして、自然環境を意識し、街をよくしようという意識が垣間見えます。それに我々も今回、賛同しようという主旨でデザインしました」とお話をいただきました。

COCOSPACE 恵比寿南



全景。下から見ると大木のように感じる木目の軒天

恵比寿の街並みに溶け込む多角形状ビルディング

かつて恵比寿は、ビール工場や有名な飲料水の会社がある商業地と、代官山から目黒川にかけて雑木林も散見される閑静な住宅地が混在する街であった。が、最近はクリエイティブな人たちが集まる街にさま変わりしつつある。

今回の建物は、駅周辺の中小規模のビルが並ぶ一角、小さな変形敷地にテナントビルを建てる計画である。

駅近の画一的なビルの中に埋没せずに、刺激的な存在感を示すには、その敷地形状を逆に生かした、この場所ならではのデザインが必要と考え、検討を進めたところ、道路斜線がかかって5階建てプラス、セットバックでも6階という当初の計画は、天空率を使うと8階建てになる事を導き出した。

中小規模のビルの設計は、ほとんどが避難階段と避難バルコニーのスペースの取り合いでスタートする。しかし、この建物は「K」の字型、上からみると「K」の字のようにも見える敷地特性により、建物前面を多角形の立体にすることで、より高い建物を建てること導き出され、縦方向に伸びやかさが感じられるファサードが生まれる。通常は正面から見た形をファサードとするが、ここでは見あげた形もそれとし、バルコニーや開口部のジグザグな配置を探った。8層分に用意されたボトルのような模型の開口部を、まるでショートケーキをカットしていくようにカッターで切り、その中で下階から上階に向けて壁のカット数を徐々に増やしていくルールが生まれ、その連続した流れが全体の統一感を維持していくことになった。ウツの軒天が樹木を見上げたような表情を加え、多様なイメージを街にもたらす。訪れる人には恵比寿の街の原風景を感じてもらえればと願う。

(竹内巖氏+岩城泰斗氏/ハル・アーキテクト 談)



4階 2カット



8階 3カット



3階 1カット



7階 3カット



2階 1カット



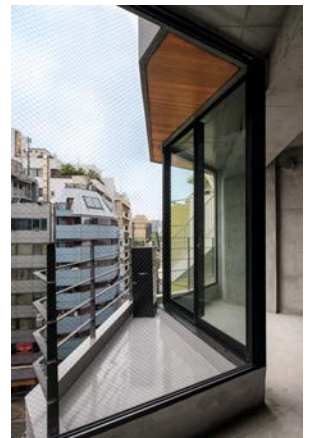
6階 2カット



1階から前面道路を臨む

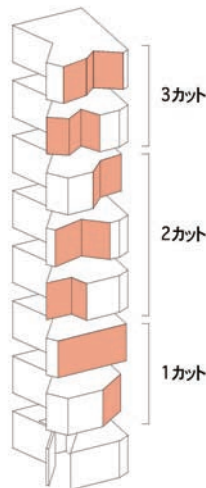


5階 2カット



変化にとんだバルコニー

上階にいくにつれて、開口部のカット面が増えることでダイナミックな流れが生まれる



建物の外壁のカット面に変化を設けて個性的な開口部を展開している

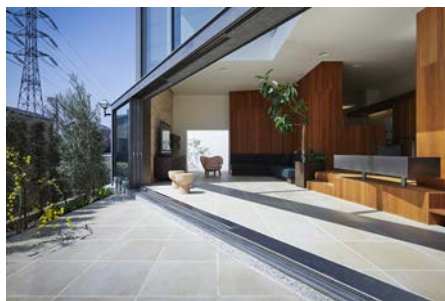


スタディ模型は47個にも及んだ

構造：RC造
 規模：地下1階、地上8階
 用途：飲食店舗
 事業主：北辰不動産(株)
 設計：竹内巖/ハル・アーキテクト
 施工担当：高沢
 竣工：2020年6月
 撮影：小野寺宗貴

「建築の向こう側」

竹内巖／ハル・アーキテクト 一級建築士事務所 代表

「浜田山／花鳥風月+水の家
ガーデン+リビング (2008)」

Iwao Takeuchi



竹内巖氏。渋谷神山町のオフィスで 撮影：アック東京

今月は、『COCOSPACE 恵比寿南』の設計者、竹内巖氏にご登壇いただきます。

ーリチャード・ロジャースの事務所いらっしたんですね。
竹内：ちょうど時代はバブルの頃で、海外の建築家が日本に多数やってきた黎明期の頃でした。新宿でビルを手掛けることになって、ローカルアーキテクトが必要になり「アーキテクト・ファイブ」が参加したのです。リチャード・ロジャースを出た後、私は「アーキテクト・ファイブ」に入り、10年勤めて独立しました。

ーここは、その「アーキテクト・ファイブ」も含めて4つの事務所所でシェアされているんですね。

竹内：ええ。2000年に独立したわけですが、90年代に携わった建築とランドスケープや家具デザインの仕事、そしてパートナーシップという共同創作のスタイルや印象的な旅行から、以下の6つのエレメントを「ハル・アーキテクト」の土台、建築の軸としました。

1. 物事を合理的に考える
2. 事象の本質を表層に惑わされず見極める
3. 建築を取り巻く自然や文化、環境との一体化を図る
4. 思考・アクションは多様な人の集積で、未知のエネルギーを生む
5. 大切なものは何かを想像し続ける
6. 変化し続ける事が新しさの根源

合理的に考えることは、無駄や装飾を抑制して建物の美しさを際立たせると同時に、プランニングにおいても時短、最短で与条件を満たします。「Less+」や「エストラルゴ目黒」では全体像やエントランスでその思考が発揮されています。

「鳥取県立フラワーパーク」では、ランドスケープを通して自然環境の素晴らしさ、その環境と建築は一体化できることを示すことができました。また最小限の構造はさらに、「花鳥風月+水の家」

や「加賀の家」などの住宅やいくつかの別荘で発展的に昇華されて、優しさや癒しといった心的な様相と融合しています。

一方でこの間、時代はバブル崩壊、阪神淡路大震災、NYのテロ、東日本大震災など多くの深い悲しみを経験してきました。が、そこには必ず再生があり、新しい文化の萌芽も芽生えました。そのような転換期は、苦しみ一方で新しいチャレンジを生み、今まで許容されづらかった空間を構築しました。その一例が、「エストラルゴ目黒」や「ジョイス大森」でトライしたシースルー・スペースと、大きく確保した収納という新しくも異質な面積バランスに現れています。

そしてこれらをクリエイトする私達は、関わる方たちといつも協力関係、相互補完関係にあって互いに影響し合い、新しい価値観を生み出してきました。それこそがコラボレーションであり、真のパートナーシップだと思います。予測不能なアイデアのぶつかり合いは、最近、組織事務所と一緒に共同参画したマニラやソウルの高層ホテル計画でも生かされていると思います。

建築は様々な要素のエッセンスによって形作られていますので、私達は、建築をモノ・カタチとしてだけ捉えるのではなく、むしろココチを大切にしています。

建築の本質は、そのプロセスと目に見えない時空間にこそあると感じています。空間を造ると同時に価値観を作り、いつも誰かを刺激し続け、問いかけていきたいと思っています。

今回の「COCO SPACE 恵比寿南」では、そうした多様なエッセンスがうまく街に溶け込む作品に仕上がりました。

それが、「ハル・アーキテクト」が創造しようとしている「建築の向こう側」という言葉の意味なのです。

ー本日はありがとうございました。

竹内 巖 (たけうち いわお)

1960年 東京都生まれ
1983年 法政大学工学部建築学科 卒業
1987年 都市建築設計事務所
1989年 リチャード・ロジャース・パートナーシップ・ジャパン
1990年 アーキテクト・ファイブ
1999年 城戸崎博孝建築研究所
2000年 建築設計事務所「アトリ工空」設立 代表建築家就任
2001年 現「ハル・アーキテクト一級建築士事務所」に変更
2020年 東京地方裁判所 鑑定委員 (有識者)
現在に至る (創立21期目)

4つの設計事務所が入る
オフィス。眺めは最高鳥取県立フラワーパーク
(アーキテクト・ファイブ
で担当)

エストラルゴ目黒 (2008)



荻窪ゲストルームを持つ家 (2008)

(株)ZENホールディングス 新社長に 松瀬 賢亮 氏 就任

さる9月11日、(株)ZENホールディングス臨時株主総会にて、各務善胤(株)ユニホー東京支店支店長、松瀬賢亮(株)ユニホープロジェクト推進課課長が取締役に選出され、株主の承認を受けました。引き続き、同日開かれた(株)ZENホールディングス取締役会にて、(株)ZENホールディングス代表取締役社長に松瀬賢亮氏が選出されました。

松瀬氏は38歳。名古屋大学で建築を学び、(株)ユニホーに入社。緑営業所所長在籍時に、母校名古屋大学が、新たな留学生宿舍建設に際しPPP/PFI手法による公募を開始したことを知り、落札に向けてグループ初の取り組みとなるこの事業を推進。留学生宿舍と福利厚生施設、パブリックスペースなどの設計・施工・管理、またそのための銀行からの融資なども含めて一括して委託するという事業を見事落札し、そのリーダーシップが注目されました。PPP/PFI手法は、海外でさまざまな分野の公共サービスで成果を収めており、日本でもここ数年で活発化。基本的に一括で民間企業に委ねることで、国や地方公共団体の事業コストの削減と、民間のノウハウで、より質の高い公共サービスを提供できる事業です。

松瀬新社長はさっそくグループ各社社長との面談を開始され、9月30日、弊社社長岩本との打ち合わせに、辰にも来社いただきました。



松瀬 賢亮 (まつせ けんすけ)

1982年 長野県生まれ
 2005年 名古屋大学社会環境工学科建築学コース卒業
 (株)ユニホー入社 開発事業部
 2009年 分譲事業部
 2012年 緑営業所 所長
 2017年 PPP/PFI 推進室 室長
 2019年 プロジェクト推進課 課長
 2020年 (株)ZENホールディングス代表取締役役に就任
 趣味：ゴルフと読書、youtube 鑑賞
 妻と子(男3、女1)の6人家族

『ヨコハマトリエンナーレ 2020』
 10月11日の閉幕を前に
 弊社制作のアートを拝見 9月27日

辰の制作による「ファーム・アーキテクツ」の作品が展覧された「ヨコハマトリエンナーレ 2020」(「SHINCLUB244」参照)がいよいよ10月11日閉幕というので、酷暑も少しおさまった9月末の日曜日に会場を訪れました。コロナ禍で開幕延期、入場者数制限などの厳しい対応が求められていた国際展では、オンラインでバーチャルツアーを設けるなど、工夫を凝らした楽しみ方を提示してきました。しかし政府のイベント入場者制限緩和(9/11)を受け、4連休はそれ

までより多くの入場者を受け入れ、この日も子供連れや中高年の来場者が多く訪れていました。

入場時はソーシャルディスタンスをキープ、マスク着用、体温計測などの対応のほか、3密を避けるよう多くのスタッフの配置、注意喚起が積極的に行われていました。

「結局、アーティストの方たちは一人も来日できなかったのが残念でしたが、バーチャルツアーやオンラインと連動した企画を行っています」と横浜トリエンナーレ組織委員会事務局の高橋伸佳氏。終了まで、さらに多くの入場者が楽しんでくれるのではないかと期待します。展示会場であるプロット48には、クリエイターの作品などを販売する、「プロット48 ショップ」も期間限定で開設されていて、きれいなデザインのマスクを購入することができました。



3密を避ける入場制限



エヴァ・ファブレガス《からみあい》2020



会場は、横浜美術館とプロット48



動線にも気配り



ファーム・アーキテクツの《空間の連立》2020

「2021年度新入社員内定式が行われました」

10月3日

10月全体会議の席で、来年度入社内定者の内定式が行われました。5人のうち女性は4人。多数の応募があった中で、公平な選抜を行った結果です(※全員施工管理職)。「就職は人生の一大イベント。我々の面接時の思いが伝わったことと思う。今日の皆さんの意気込みを生き、まじめに仕事をすれば数年後は必ず活躍してくれることだろう。選ばれたメンバーであるという自覚で自信をもって入社してほしい」と社長岩本から心強いメッセージが伝えられました。



「千駄ヶ谷駅前公衆便所」が『新建築 10月号』に掲載

246号でお披露目式をお伝えした「千駄ヶ谷駅前公衆便所」が『新建築 10月号』に掲載されています。ぜひご覧ください。(10月1日発売)



編集後記

「go to キャンペーン」はもう利用されましたか。10月は休日がないということですが、有給休暇を使って平日、お出かけになるのもおすすめです。

(株)辰 通信 Vol.247 発行日 2020年10月10日
 編集人：松村典子 発行人：若本健寿
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570
 FAX:03-3486-1450 E-mail : daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

